

大学生を対象にした定期星空観望会の試み

早川 賢、前田 昌志、伊藤 信成（三重大大学教育学部）

An attempt to star-watching party target for university students

Ken Hayakawa, Masashi Maeda, Nobunari Itoh (Faculty of Education, Mie University)

Abstract

We have started regular star-watching party from this year. Since the main target of our events is university students, we have used Social Network System as the main tool to inform our activity. From our experiments, it is found that SNS is effective means to inform not only university students but community resident of our events. We are going to collaborate with students in other programs and circles to promote the star-watching activity.

1 はじめに

今日の大学生は所謂ゆとり世代と呼ばれる世代であるが、その世代は義務教育の教育課程を通して、天文について学ぶ機会が少なかったという現状がある。したがって、そういった世代にこそ星に興味を持ってもらい実際に星空を眺めるきっかけを作りたい、実際に星空を眺めることによって星に対する理解を深めてもらいたいと思い、今年度から大学生を対象とした星空観望会を行っていくことにした。

2 観望会の周知方法

観望会の周知方法としては、ポスターなどの一般的な方法に加え、ソーシャル・ネットワーク・サービス（以下、SNS）の積極的な活用を進めた。これは、学生は部活やサークルといったコミュニティの一環として SNS を利用することが多く、大学生の集客につながると考えたからである。いくつかある SNS の中でも、私たちは Twitter と Facebook を選択し、「三重大大学天文学研究室」という名前のアカウントを作成し、学生が管理・運営を行っている。

3 今までの観望会について

今までに観望会は 4 回計画している（表 1）。実際に観望会を行ったのは第 1 回と第 4 回であり、第 2 回と第 3 回は天候に恵まれず中止した（第 3 回については七夕講演会のみ実施した）。観望会実施時にはアンケートを行っているのので、以下ではアンケートの内容の中から我々の手法の妥当性を検討していく。

表 1 今までに計画した観望会の日程と内容

	日程	主な内容
第1回	5月24日(金)	春の星空の解説
第2回	6月21日(金)	太陽の観察、夏至の解説
第3回	7月5日(金)	七夕講演会、夏の星空の解説
第4回	8月12日(月)	ペルセウス座流星群の観察

3.1 第1回星空観望会について

第1回星空観望会は5月24日(金)に実施した。場所は三重大大学教育学部棟屋上であり、時間は19時～21時の2時間行った。当日は168人の方が参加し、望遠鏡による月・金星・土星などの観察と学生による春の星空の解説を行った。

アンケートについて報告する。まずアンケートの回答者数は118人であった。その内、大学生の割合は62%であった。大学生を主対象として企画した観望会であり、目標は達成できたものとする。また、観望会を知ったきっかけについて、大学生と大学生以外の結果を図1に示す。両者とも知人という回答が多かったが、大学生に比べ大学生以外の認知方法は多様であった。また、SNSで観望会を知ったと回答した割合は大学生のほうが多く全体の1/5程になっている。このことから、SNSが大学生の集客に効果的であると言える。

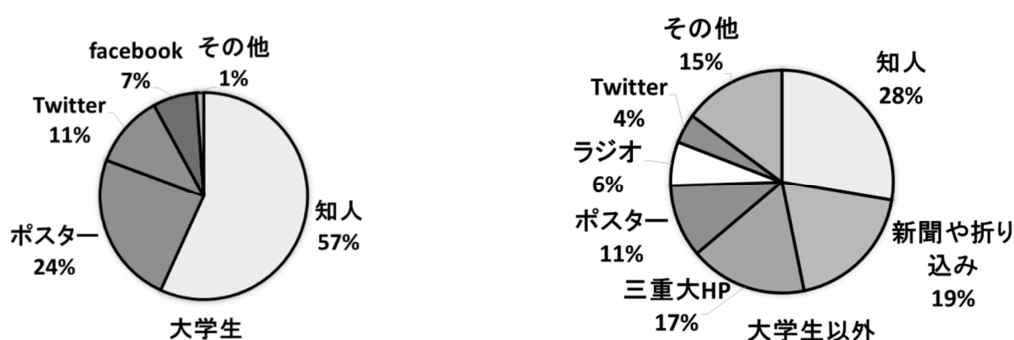


図1 観望会についてどのように知ったか(第1回観望会)

3.2 第4回星空観望会について

第4回星空観望会は8月12日(月)に実施した。場所は第1回同様、三重大大学教育学部棟屋上であり、時間は20時～22時の2時間行った。当日は80人の方が参加し、望遠鏡による月・土星などの観察とペルセウス座流星群の観察を行った。

アンケートについて報告する。アンケート回答者数は53人であった。その内、大学生の割合は79%であり、第1回のときと比べると大学生の割合は増加した。また学生は知人という回答が43%と一番多く、一方、大学生以外は三重大大学HPが60%で一番多いという結果になった。また、SNSを見て観望会について知ったと回答した人数の割合は今回も大学生のほうが多かった(図2)。

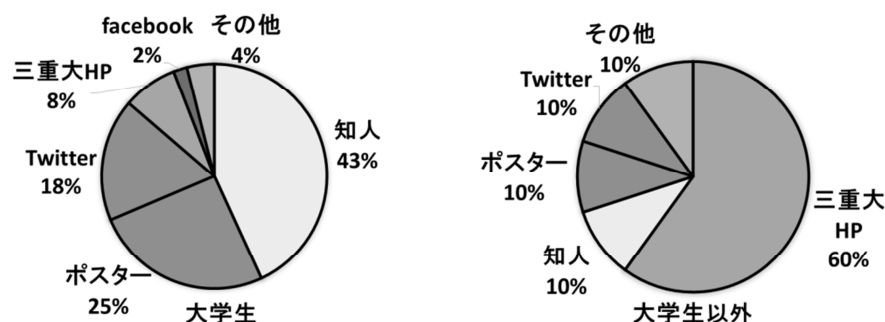


図2 観望会についてどのように知ったか(第4回観望会)

4 SNS について

SNS の解析結果について報告する。表 2 は Facebook における、今までの告知に関する投稿の内容とそれを見た人数を表している。第 1 回と第 4 回でそれぞれ 300 人以上の方が投稿を見ていることから、実際に観望会を行ったほうが投稿を見る人数も増えたと予想される。

また、図 3 は Twitter における、私たちのアカウントのフォロワーの推定地域を表している。三重が近畿地方に含まれているので、近畿地方の割合が多いが、他の地域の方も少なからずフォローしており、幅広くアカウントについて知られているのがわかる。

表 2 今までの投稿の内容と見た人数

投稿日時	内容	見た人数
5月19日	第1回観望会	318人
6月15日	第2回観望会	114人
6月27日	第3回観望会	222人
7月5日	第3回観望会	268人
7月10日	第4回観望会	380人
8月9日	第4回観望会	379人

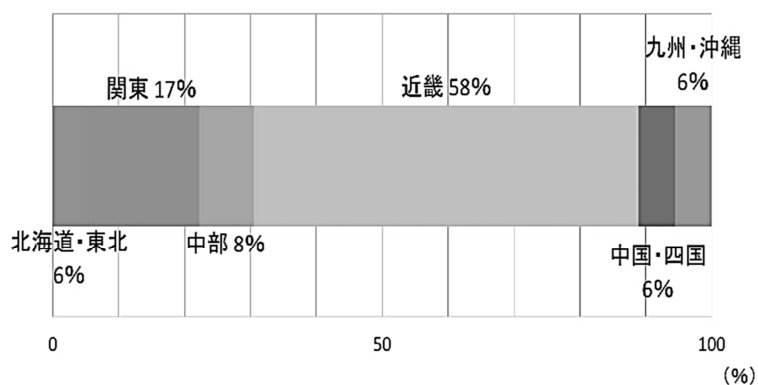


図 3 フォロワーの推定地域

5 今後の課題

今後も大学生を中心に、より多くの方に観望会に参加してもらうために課題を大きく 3 つ挙げる。

① 連携企画

天体観望だけでは大学生が集まりにくいという側面もあるため、今後の観望会では、他の学科や部活・サークルとの連携を模索している。例えば中秋の名月である9月19日(木)に行う第5回観望会では教育学部家政教育と連携し、月見だんごをつくってもらう予定である。この連携により、家政教育の学生にも観望会に参加してもらえるだけでなく、これまであまり連携することがなかった教科間でのつながりができることが期待される。また、10月18日(金)の観望



会では軽音楽部とコラボし、音楽を聴きながら観望会を行うといったことをする予定である。他にもアンケートに写真を撮ってみたい」との意見があったので写真部との連携も検討したい。さらに、三重大学は環境推進大学を標榜しており、7月7日の七夕には図4のようなライトダウン・キャンドルナイトという活動を行っている。そこで、この活動を推進しているグループと連携し、普段の観望会でもライトダウンを行っていかれたらと考えている。

② 場所の再検討

これまでの観望会は教育学部棟の屋上で行っている。しかし、屋上には空調の室外機や配管などの障害物が多く、特に視認性が低くなる夜間には、それらに引っかかりけがをする可能性もある。そのような危険性を未然に防ぐためにもより安全性の高い場所での観望会開催の可否を検討中である。

図4 七夕ライトダウン・キャンドルナイトの様子

③ 人員確保

来年度以降も継続的な活動を行うため、人員を確保し続けることが必要である。現在は研究室の学生だけで運営しているが、それだけでなく、天文サークルなど研究室外の人達とも連携し、人員確保と人材の育成を図っていきたい。

6 まとめ

今年度から三重大学天文学研究室でも観望会を定期的に行うことにし、今までに2回実施した。観望会の周知方法としては、SNSに特に力を入れて取り組んでいる。実際の観望会でもSNSによる告知効果が確認されており、今後も増えることが期待できる。今後の観望会では他学科や部活・サークルと連携し、大学生に関心を寄せてもらえるよう努めるとともに観望会の質の向上を目指していきたい。また、天文サークルと協力し、2・3年生の育成にもつなげ、来年度以降も継続して行っていきたいと考えている。

質疑応答

Q: 大学生に加え、大学の事務職員、生協の方、大学役員なども参加されているのだろうか。観望会は多くの人をひきつけ、また、多くの協力や形態があることをこういった方々に知っていただき、そしてご自身も楽しんでいただくようになるとよいのではないだろうか。(富田 晃彦さん)

A: おっしゃるとおりです。積極的に参加していただくよう呼びかけていきたい。